

上北鉱山広報誌「上北ニュース」について

竹村俊哉¹⁾

Introduction of the kamikita mine public information magazine "kamikita news"

Toshiya TAKEMURA

key words : 上北ニュース、神風鉱山、タブロイド判、職場紹介、鉱山街

1 上北鉱山のはじまり

上北鉱山は、上北郡旧天間林村天間館（上北郡七戸町）で操業していた。大正初期には2, 3の業者が採鉱していたが、昭和10年（1935）、三井栄一が硫化鉄床を発見し、注目されるようになった。翌11年、三井は日本鉱業株式会社に経営を委任し、さらに立石、上の沢、奥の沢などでも硫化鉄床を発見した。

日本鉱業株式会社は、明治38年（1905）、久原房之助が赤沢銅山（茨城県）を買収し「日立鉱山」を創業したことに始まる。全国の地方鉱山をはじめ中国、朝鮮半島、台湾、フィリピン諸島、マレー半島の鉱山を買収開発し、事業規模を拡大した。上北鉱山もその一つで、昭和15年に鉱区の譲渡を受け、硫化鉄床として本格操業に入った。翌16年には、奥の沢硫化鉄床に接して大規模かつ高品位の銅鉄床が発見された。同19年9月には産銅量が月1400トンを超え、わが国第1の銅山となった。軍需物資補給の要請に応え、「神風鉱山」と喧伝された。

2 戦後の操業再開と終焉

戦後、上北鉱山では、硫化鉄鋼の採掘が再開された。高品位銅鉄の産出量は減ったものの、昭和23年に上の沢で、昭和25年に立石で、含銅硫化鉄床が発見された。昭和30年代には選鉱場が拡大され、精鉱は総延長21km鉄索（ワイヤーケーブル）で野内貯鉱舎へ運ばれて、貨車や船舶で出荷された。資材や物資もこの鉄索で運搬された。また、東北本線乙供駅から元山までの28kmでは軌道を用いたガソリンカーが運行され、人や重量物資を運搬した。夏季には青森駅から市営バスが幸畑、田代を経由して1日3往復し、冬季には東北本線千曳駅から雪上車がガソリンカーのルートを1日2往復した。

最盛期の上北鉱業所は、総務、経理、調度、運輸、探査、採鉱、選鉱、施設の各課と直営医院の、8課1院に分かれていた。医院には内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻科、歯科があり、手術室やレントゲン装置のほか、ベッド数17の入院施設が設けられていた。創業当初の鉱山従業員数はわずか50名だったが、昭和20年には1485名に上り、昭和32年でも862名を数えた。従業員の家族も含めた全人口は3400名に及んだ。社宅約700戸、独身寮・学生寮6、生活用品供給所（販売所）3、共同浴場9、理髪店3、美容院1のほか、会館（映画・演劇等）、クラブ（宿泊施設）があり、幼稚園をはじめ、天間林村立上北鉱山小学校、同中学校、県立七戸高等学校上北鉱山分校（定時制）があった。従業員の文化・教養を高めるために文化会が組織され、教養・卓球・弓道・生花・音楽・庭球・スキー・尺八・演劇・柔道・写真・文芸・野球・剣道・囲碁・山の会・バレーボール・相撲・ダンス等の活動が行われた。しかし、新鉄床が発見されなくなると上北鉱山の鉱量は激減し、昭和46年9月、ついに坑内採掘作業が休止された。その後は、金属鉱業等鉱害対策特別措置法に基づき財団法人資源環境センター上北事業所が坑内湧水の中和処理作業や旧口の密閉等、環境改善対策工事を実施しつつ、現在に至っている。

3 「上北ニュース」の発刊

広報誌「上北ニュース」は、上北鉱業所が最盛期を迎えた昭和30年代に創刊されたタブロイド判の新聞である。印刷所は東奥日報社であった。今年度、上北鉱山で生活していた方から当館にその一部が寄贈された。創刊号は昭和30年1月に発行され、以後毎月発行された。創刊号が現存し、以下欠番はあるが昭和39年6月1日発行の第114号まで存在する。終刊がいつなのかは判明しない。創刊号は6ページ構成であるが、以後ほぼ4ページの紙面で編集され、昭和36年2月1日発行の第74号からは概ね2ページ紙面となった。

創刊号では発行責任者である総務副課長が「上北ニュース発刊に当って」と題して、発刊の主旨として次の3点挙げている。第1に会社の意志が従業員の末端にまで浸透するために供せられなければならない。第2に従業員の相互に語る場でありたい。第3に全山の動きが読者のまえにうつしだされるための役割を果たしたい。創刊1周年を機会に実施した世論調査による興味のある紙面の内容としては、1位が山、部落のできごとであり、以下会社の現況方針、職場の様子、家庭向け記事、衛生記事、文化会関係、生活合理化問題、読み物、保安、福利・厚生という順位であった。このうち、職場の様子を報じる「職場紹介」欄からは、鉱業所内各課の具体的職務内容を知ることができ、昭和30年代の上北鉱業所の業務実態を記録した貴重な資料である。「上北鉱山ニュース」は、高度経済成長期の鉱山経

1) 青森県立郷土館 学芸主幹 (〒030-0802 青森市本町2丁目8-14)

営や鉱山街の実態を解明する上で、多様な情報を提供してくれるので、今後の利用に期待したい。

「上北ニュース」所蔵一覧

号数	発刊日	頁	号数	発刊日	頁	号数	発刊日	頁	号数	発刊日	頁
創刊号	昭和30年1月1日	6	第31号	昭和32年7月1日	4	第56号	昭和34年8月1日	4	第79号	昭和36年7月1日	2
第8号	昭和30年8月1日	4	第32号	昭和32年8月1日	4	第57号	昭和34年9月1日	4	第80号	昭和36年8月1日	2
第9号	昭和30年9月1日	4	第33号	昭和32年9月1日	6	第58号	昭和34年10月1日	4	第81号	昭和36年9月1日	4
第10号	昭和30年10月1日	4	第34号	昭和32年10月1日	4	第59号	昭和34年11月1日	4	第82号	昭和36年10月1日	2
第12号	昭和30年12月1日	6	第35号	昭和32年11月1日	4	第60号	昭和34年12月1日	4	第83号	昭和36年11月1日	2
第13号	昭和31年1月1日	4	第36号	昭和32年12月1日	4	第61号	昭和35年1月1日	4	第84号	昭和36年12月1日	2
第14号	昭和31年2月1日	4	第37号	昭和33年1月1日	4	第62号	昭和35年2月1日	4	第85号	昭和37年1月1日	4
第15号	昭和31年3月1日	4	第38号	昭和33年2月1日	4	第63号	昭和35年3月1日	4	第86号	昭和37年2月1日	2
第16号	昭和31年4月1日	4	第39号	昭和33年3月1日	4	第64号	昭和35年4月1日	4	第87号	昭和37年3月1日	2
第17号	昭和31年5月1日	4	第40号	昭和33年4月1日	4	第65号	昭和35年5月1日	4	第88号	昭和37年4月1日	2
第18号	昭和31年6月1日	4	第41号	昭和33年5月1日	4	第66号	昭和35年6月1日	4	第90号	昭和37年6月1日	2
第19号	昭和31年7月1日	4	第43号	昭和33年7月1日	4	第67号	昭和35年7月1日	4	第91号	昭和37年7月1日	2
第20号	昭和31年8月1日	4	第44号	昭和33年8月1日	4	第68号	昭和35年8月1日	4	第92号	昭和37年8月1日	2
第21号	昭和31年9月1日	4	第45号	昭和33年9月1日	6	第69号	昭和35年9月1日	4	第93号	昭和37年9月1日	2
第22号	昭和31年10月1日	4	第46号	昭和33年10月1日	4	第70号	昭和35年10月1日	4	第94号	昭和37年10月1日	2
第23号	昭和31年11月1日	4	第47号	昭和33年11月1日	4	第71号	昭和35年11月1日	4	第96号	昭和37年12月1日	2
第24号	昭和31年12月1日	4	第48号	昭和33年12月1日	4	第72号	昭和35年12月1日	4	第97号	昭和38年1月1日	2
第25号	昭和32年1月1日	4	第49号	昭和34年1月1日	4	第73号	昭和36年1月1日	4	第98号	昭和38年2月1日	2
第26号	昭和32年2月1日	4	第50号	昭和34年2月1日	4	第74号	昭和36年2月1日	2	第107号	昭和38年11月1日	2
第27号	昭和32年3月1日	4	第52号	昭和34年4月1日	4	第75号	昭和36年3月1日	2	第109号	昭和39年1月1日	2
第28号	昭和32年4月1日	4	第53号	昭和34年5月1日	4	第76号	昭和36年4月1日	2	第113号	昭和39年5月1日	2
第29号	昭和32年5月1日	4	第54号	昭和34年6月1日	4	第77号	昭和36年5月1日	4	第114号	昭和39年6月1日	2
第30号	昭和32年6月1日	4	第55号	昭和34年7月1日	6	第78号	昭和36年6月1日	2			

計 91 点



写真1 創刊号(昭和30年1月1日)



写真2 第18号の職場紹介欄(昭和31年6月1日)

【参考文献】

『日本鉱業株式会社五十年史』日本鉱業株式会社 1957年

『日本鉱業株式会社社史 1956-1985 創業八十周年記念』日本鉱業株式会社 1989年